

令和4(2022)年度 社会福祉法人あかつき福祉会

【決算書】

社会福祉法人あかつき福祉会

令和4(2022)年度 社会福祉法人あかつき福祉会 決 算 書

目 次

【事業報告書】

あかつき福祉会の1年	1
1. 令和4(2022)年度全体概要報告	2
2. 法人本部(総務課)	4
3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり	
①就労継続支援B型事業	6
②生活介護事業	8
4. わんすてっぷ	10
5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園	
①園管理運営事業	12
②生活介護事業	14
③施設入浴サービス事業	16
④社会福祉増進事業	17
6. 地域生活総合支援センター	
①共同生活援助事業・日中サービス支援型共同生活援助事業・短期入所事業	18
②居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業	20
③相談支援事業	22
7. 事故・苦情・ヒヤリハット等の状況	24
8. 地域参加・交流状況	29
9. 職員研修実施状況	30
10. 実習生受入状況	31
11. ボランティア受入状況	32
12. 視察・見学状況	33
13. 講師派遣状況	34
14. 役員名簿	35
15. 令和4(2022)年度組織図	37
16. 令和4(2022)年度職員内訳	38

【計算書類】

1. 法人単位資金収支計算書	39
2. 法人単位事業活動計算書	40
3. 法人単位貸借対照表	41
4. 計算書類に対する注記	42
5. 決算附属明細書	45
①固定資産管理台帳、固定資産増減明細表	46
②寄附金収益明細表	50
③補助金事業等収益明細書	51
④基本金明細書	52
⑤国庫補助金等特別積立金明細書	53
6. 社会福祉事業区分	
①資金収支内訳表	54
②事業活動内訳表	55
③貸借対照表内訳表	56
7. 瀬川拠点区分	
①資金収支計算書	57
②事業活動計算書	59
③貸借対照表	61
④計算書類に対する注記	62
〈決算附属明細書〉	64
①基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書	65
②引当金明細書	66
③事業活動明細書	67
④積立金・積立資産明細書	68
⑤サービス区分繰入金明細書	69
⑥就労支援事業別事業活動明細書（多機能型事業所等用）	70
⑦就労支援事業製造原価明細書（多機能型事業所等用）	71
⑧就労支援事業販管費明細書（多機能型事業所等用）	72
⑨事業未収金明細表	73
⑩未収補助金明細表	73
⑪未収金明細表	73
⑫前払金明細表	73
⑬立替金明細表	73
⑭事業未払金明細表	74
⑮職員預り金明細表	76

8. 西小路拠点区分	
①資金収支計算書	77
②事業活動計算書	79
③貸借対照表	81
④計算書類に対する注記	82
〈決算附属明細書〉	84
①基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書	85
②引当金明細書	86
③事業活動明細書	87
④積立金・積立資産明細書	88
⑤サービス区分繰入金明細書	89
⑥事業未収金明細表	90
⑦未収補助金明細表	90
⑧前払金明細表	90
⑨事業未払金明細表	90
9. 地域生活総合支援センター拠点区分	
①資金収支計算書	92
②事業活動計算書	94
③貸借対照表	96
④計算書類に対する注記	97
〈決算附属明細書〉	99
①基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書	100
②引当金明細書	101
③事業活動明細書	102
④積立金・積立資産明細書	103
⑤サービス区分繰入金明細書	104
⑥事業未収金明細表	105
⑦未収補助金明細表	105
⑧前払金明細表	105
⑨事業未払金明細表	105
⑩預り金明細表	106
10. 財産目録	107

令和4(2022)年度 社会福祉法人あかつき福祉会
事業報告書

社会福祉法人あかつき福祉会

あかつき福祉会の1年 -令和4(2022)年度-

2022年4月



お花見<あかつき園・ワークセンターささゆり>

5月



万博散策<ささゆり園>

6月



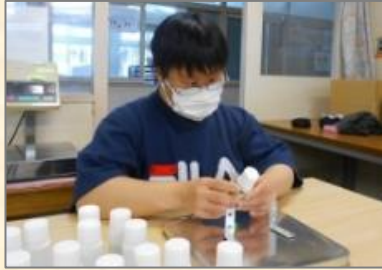
所外活動(五月山公園)<わんすてっぶ>

6月



クリーン・みのお作戦<支援センター>

7月



ペット用シャンプーボトル詰め作業
<あかつき園・ワークセンターささゆり>



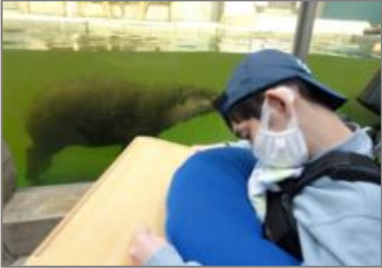
家族交流会<ささゆり園>

8月



喫茶活動
<あかつき園・ワークセンターささゆり>

10月



園外活動(ニフレル)<ささゆり園>



あかつきまつり

10月



所外活動(安満遺跡公園)
<あかつき園・ワークセンターささゆり>

12月



クリスマス会<ささゆり園>

2023年1月



書初め<わんすてっぶ>

1月



全市一斉防災訓練(西南小学校)
<あかつき園・ワークセンターささゆり>

2月



節分豆まき<支援センター>

3月



ペットボトルキャップ引取り(豊川南小学校)
<あかつき園・ワークセンターささゆり>

1. 令和4(2022)年度全体概要報告

(1) 地域交流行事の再開

【法人本部(総務課)】

6月にクリーン・みのお作戦、10月にあかつきまつり開催、11月に西南小地区「みんなおいでよ交流会」に参加するなど、コロナ禍で自粛・中止していた地域交流行事を徐々に再開した。

(2) 所外活動の再開

【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

コロナ禍で中止していた所外活動を、行き先や行程には配慮しつつ、3年ぶりに再開した。

(3) 医療機関との連携

【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

【わんすてっぷ】

【箕面市立障害者福祉センターささゆり園】

医療機関と連携して利用者向けの「健康診断」「歯科検診」を所内で実施するとともに、新たにインフルエンザ予防接種も所内で実施した。

【地域生活総合支援センター】

入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図るため、グループホームに新規で訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問看護を4名・延べ8件導入した。

(4) 新型コロナ陽性者対応

【地域生活総合支援センター】

グループホームで入居者延べ21名、職員延べ14名が新型コロナに感染し、陽性者支援を行った。

(5) 計画相談利用者の引き継ぎ

【地域生活総合支援センター】

市内相談支援事業所の年度末での閉所に伴って利用者7名の受け入れ対応等を行い、令和4年度末の利用契約者数は113名(前年度比+10名)となった。

【令和4(2022)年度実施事業等】

1. 法人本部(総務課)
2. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり <指定管理>
【実施事業】①生活介護事業 定員 70名
②就労継続支援B型事業 定員 10名
3. わんすてっぷ
【実施事業】 生活介護事業 定員 15名
4. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園 <指定管理(④を除く)>
【実施事業】①園管理運営事業
②生活介護事業 定員 20名
③施設入浴サービス事業
④社会福祉増進事業
5. 地域生活総合支援センター
【実施事業】①共同生活援助事業 定員 28名
(第2つながりの家)
②日中サービス支援型共同生活援助事業/短期入所事業
(第11つながりの家) 定員 8名/1名
③居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業
(ヘルパーステーション「ウイズ」)
④相談支援事業
(ウイズ)

2. 法人本部（総務課）

(1) 概要

- 6月にクリーン・みのお作戦に参加、10月にあかつきまつりを開催、11月に西南小地区の「みんなおいでよ交流会」に利用者・職員で参加するなど、コロナ禍で自粛・中止していた地域との交流行事を徐々に再開した。
- 大阪労働局「大阪府社会福祉施設+Safe協議会」に参画、厚生労働省「Safeアワード」で近畿ブロック賞を受賞するなど労災防止の取り組みを推進するとともに、職員の健康配慮等の取り組みも推進して3年連続で「健康経営優良法人」認定を受けることが出来た
- 利用者の逝去や退所、コロナ禍に伴う長期欠席、光熱費・物価高騰はあったが、全体的に前年度より利用率が堅調だったことや支出削減に取り組んだ結果、法人全体の収支差額は865万円（前年度比+636万円）となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用者支援記録DBの構築・運用の定着化	○利用者支援記録の様式統一、データベース化を図るため、利用者支援記録DBの運用を前年度1月より開始したが、ネットワーク環境や操作性の課題があり、全日中施設での本格運用には至らなかった。
2	虐待防止・サービス向上の取り組み	○虐待防止セルフチェック（8月・2月）及び虐待防止・サービス向上委員会（9月・3月）を、各年2回継続的に開催した。併せて、虐待防止セルフチェック結果改善の取り組みを半年単位で実施した。 ○7月から3月にかけて4グループで事例検討会を開催した。各グループには各施設から検討メンバーを選出し、それぞれ利用者1名を取り上げて支援の改善について検討→実践→振り返りを3回にわたって実施した。
3	感染症対応の強化	○感染管理の認定看護師による新型コロナ対応の実地指導を7月にグループホーム/瀬川地区/ささゆり園において実施するとともに、指導内容をふまえ感染症対策の取り組みの一部見直しも行った。 ○日中施設においては大阪府の高齢者施設等従事者PCR検査を毎週1回、グループホームにおいては定期抗原検査を3日ごとに1回実施した。 ○3カ月ごとに（緊急時は臨時に）感染症対策委員会を開催し、対応状況の確認や対応策の検討などを行った。
4	防災対応の強化	○消防（避難）訓練を年2回（瀬川地区6月・1月/ささゆり園10月・1月）実施した。1月の訓練時にはBCP訓練も併せて行い、備蓄物資の在庫状況や使用方法の確認を行った。 ○7月・2月に普通救急救命講習を箕面消防署および瀬川地区・ささゆり園で実施し、計15名が受講した。 ○1月にBCP（感染症版・自然災害版）の改定を行った。
5	新長期計画の推進	○長期計画PTを3カ月ごとに開催し、進捗状況や課題について確認した。
6	人材確保・育成	○ハローワーク求人やインターネット媒体の活用等により、継続的に人材募集を行った結果、支援職員1名・臨時職員9名の採用につながった。 ○大阪労働局「大阪府社会福祉施設+Safe協議会」メンバーに選出され、6月より参加した。さらに労災防止の取組に対して、3月に厚生労働省「SAFEアワード」近畿ブロック賞を受賞した。 ○経済産業省の「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」認定を3年連続で受けることができた。
7	地域交流の促進・広報活動の強化	○6月に「クリーン・みのお作戦」に瀬川地区/ささゆり園/グループホームにて利用者11名・職員9名が参加した。 ○2年続けて中止していた納涼祭は、形式を変えて「あかつきまつり」として10月に開催した。マジックショーや抽選会を実施し近隣地域より500名近くの来場者があった。 ○11月に、例年参加している西南ジャンボリーに代わって開催された「みんなおいでよ交流会」に、職員9名が走り方教室の記録係として参加した。 ○ブログを年160回（月平均13.3回）更新した。 ○広報誌「あかつきだより」を3カ月ごとに発行した。

8	収支状況の改善	<p>○あかつき園・ワークセンターささゆりは、利用者の退所等があり、生活介護事業の収支差額は前年度より回復したものの、▲1,071万円（前年度比+372万円）と依然として大幅な赤字となった。</p> <p>○わんすてっぶは、利用者の長期欠席等があり、収支差額は前年度より回復したものの▲68万円（前年度比+61万円）となった。</p> <p>○ささゆり園は、利用者の逝去やコロナ禍で感染者が拡大した時期もあったが、生活介護事業の収支差額は918万円（前年度比▲76万円）となった。</p> <p>○地域生活総合支援センターは、グループホームの収入が安定していたことや移動支援の提供時間増に伴う収入増などにより、収支差額は1,168万円（前年度比+598万円）となった。</p> <p>○利用者の逝去や退所、コロナ禍に伴う長期欠席、光熱費・物価高騰はあったが、全体的に前年度より利用率が堅調だったことや支出削減に取り組んだ結果、法人全体の収支差額は865万円（前年度比+636万円）となった。</p>
9	経営基盤の強化	<p>○自主事業（生活介護等）の拡大に向けて、情報収集等を行ったが、新規物件の確保には至らなかった。</p>

(3) 今後について

- 原課と連携して、指定管理事業・自主事業の収支改善策を引き続き検討・実施していく。
- 前回受審から3年が経つあかつき園・ワークセンターささゆり及びささゆり園の第三者評価の再受審に向けて、前回評価での指摘事項、この間の改善状況等を再確認していく。
- 令和5年度まで指定管理期間が延長されたあかつき園・ワークセンターささゆりについて、次期指定管理やあかつき園建て替えに向けた協議・対応を図っていく。

(4) 理事会・評議員会等開催状況

理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 令和 4年 6月10日 ・ 第2回 令和 4年 9月15日 ・ 第3回 令和 5年 3月30日 	<ul style="list-style-type: none"> 案件 = 令和3(2021)年度決算 など 案件 = 職員給与規則の一部改正 など 案件 = 令和5(2023)年度事業計画及び予算 など
評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 令和 4年 4月25日 ・ 第2回 令和 4年 6月27日 	<ul style="list-style-type: none"> 案件 = 役員解任及び選任 案件 = 令和3(2021)年度決算 など
・ 評議員選任 ・ 解任委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催なし 	
運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 令和 4年 6月 1日 ・ 第2回 令和 5年 3月24日 	<ul style="list-style-type: none"> 案件 = 令和3(2021)年度決算 など 案件 = 令和5(2023)年度事業計画及び予算 など

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

<就労継続支援B型事業>

(1) 概要

- 新たな作業種として、6月よりペット用シャンプーの詰め替え作業を開始した。自助具などを用いて取り組み、新たな作業として定着した。
- 多様な働く機会や社会生活に必要な経験の提供するため、箕面市障害者事業団体体験実習を実施し、花壇管理、植物リースに2名が延べ19日間（前年度1名・延べ10日間）が参加した。
- 製袋事業について、社会情勢に合わせて入札実施時期を例年より早めたり、在庫置き場となっている環境クリーンセンター内に新たな保管場所を確保・運用するなど、引き続き安定運営に取り組んだ。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	コロナ禍での支援の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため行き先や行程には配慮しつつも、3年ぶりに所外活動を再開した。 ○室内での作業・活動が増えたことで、利用者の作業スキル向上や取り組める作業の幅を広げることにつながった。
2	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○支援学校より、8名の見学受入を行った。 ○チーム別懇談会を再開し、ZOOMを活用して利用者家族に利用者支援の様子を見ていただく機会を設けた。 ○専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）を受けながら、コロナ禍で調子を崩した利用者の服薬調整や機能訓練など、障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上を図った。
3	多様な働く機会や社会生活に必要な経験の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○箕面市障害者事業団での体験実習を実施し、花壇管理・植物リースに2名が延べ19日間（前年度1名・延べ10日間）参加した。 ○新たな作業種として6月よりペット用シャンプーの詰め替え作業を開始した。自助具などを用いて取り組み、作業として定着させることができた。
4	製袋事業の安定運営	<ul style="list-style-type: none"> ○不安定な社会情勢のなかで、引き続き箕面市指定ごみ袋の安定供給を行うため、次年度の入札を例年より3~4ヵ月早めて10月に実施した。原材料の価格高騰により落札されないアイテムもあったが、交渉を行うなどして対応し、次年度の必要数を確保出来る体制を整えた。 ○在庫置き場となっている環境クリーンセンター内に新たな保管場所（地下駐車場の一部）を確保することが出来たことで、搬入・搬出の負担が大幅に軽減された。
5	虐待防止・サービス向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月~1月に法人全体で開催した虐待防止研修に5名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な声かけなどについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。 ○市内の医療機関と連携し7月に健康診断、10月に歯科検診を所内で実施するとともに、新たにインフルエンザ予防接種も11月に実施した。
6	感染症対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○7月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○利用者の感染防止を図るため、マスクの着用支援や室内の換気など作業環境とともに、職員休憩室の感染対策も強化した。
7	利用率向上・収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で年間20日以上自主休所した利用者は1名（前年度3名）で、平均利用率は89.7%（前年度比+5.1ポイント）となった。 ○訓練給付費収入は933万円（前年度比▲28万円）、収支差額（就労支援事業を除く）は▲69万円（前年度比▲3万円）であった。
8	新規利用者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの相談支援事業所に当施設をアピールし利用者の紹介を依頼したが、新規利用者の獲得にはつながらなかった。

(3) 今後について

- 引き続き製袋事業の安定的な運営に向けて、収支改善の取り組み、安定供給に向けた仕入事業者やシェア事業所、箕面市との調整を図っていく。
また、新たな在庫置き場としている環境クリーンセンターの有効活用など配送効率の改善策を検討・実施していく。
- 定員割れしている利用者の確保に向けて、相談支援事業者との連携強化を図っていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和3年度	令和4年度
箕面市指定ごみ袋の生産	82,810,797円	97,271,645円
館内清掃	100,000円	100,000円
ペットシャンプーボトル詰め替え	—	32,601円
計	82,910,797円	97,404,246円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	令和3年度	令和4年度	前年度比
就労継続支援B型	10,058円	14,067円	139.8%

②施設外支援

実習先	参加人数（実数）	参加延べ日数	職種
箕面市障害者事業団	2名	19日	緑化部門（花壇管理等）

③その他の活動

- 健康活動（ラジオ体操、ウォーキング、ダンス等）
- 創作活動（ペーパークラフト、手芸等）
- 社会活動（地域清掃等）
- 所外活動（万博記念公園、道の駅 フルーツフラワーパーク大沢）

(5) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和4年度	6名	31.7歳	13.7年	89.7%	5.5名
令和3年度	7名	32.1歳	10.9年	84.6%	5.4名

令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	3名	3名	0名	0名

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

<生活介護事業>

(1) 概要

- コロナ禍のため、行き先や行程には配慮しつつ、3年ぶりに所外活動を再開した。
- 市内の医療機関と連携して利用者向けの健康診断を7月、歯科検診を10月に施設内で実施するとともに、11月には令和4年度より新たにインフルエンザ予防接種を施設内で行う体制を整え実施した。
- コロナ禍及び光熱費・物価高騰の状況ではあったが、平均利用率は90.2%（前年度比+1.8ポイント）で微増となり、支出削減にも努めた結果、収支差額は▲1,071万円（前年度比+372万円）と若干の改善を図ることができた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	コロナ禍での支援の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため行き先や行程には配慮しつつも、3年ぶりに所外活動を再開した。 ○室内での作業・活動が増えたことで、利用者の作業スキル向上や取り組める作業の幅を広げることにつながった。
2	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○支援学校より、8名の見学受入を行った。 ○チーム別懇談会を再開し、ZOOMを活用して利用者家族に利用者支援の様子を見ていただく機会を設けた。 ○専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）を受けながら、コロナ禍で調子を崩した利用者の服薬調整や機能訓練など、障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上を図った。
3	介護技術の標準化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の業務の流れに沿って、業務マニュアルの整備を行った。 ○利用者の支援方針の検討及び共有化を図り、適時、利用者の支援マニュアルの見直しを行った。
4	虐待防止・サービス向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月～1月に法人全体で開催した虐待防止研修に5名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な声かけなどについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。 ○市内の医療機関と連携し7月に健康診断、10月に歯科検診を所内で実施するとともに、新たにインフルエンザ予防接種も11月に実施した。 ○他傷行為や器物損壊などの事故件数増加の要因として、コロナ禍での外出制限等に伴う利用者のストレスやパニック等があり、家族と連携して服薬調整を行った結果、改善されたケースもあったが、環境や支援、服薬内容が合わずに不調が継続するケースも見られた。
5	感染症対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○7月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○利用者の感染防止を図るため、マスクの着用支援や室内の換気など作業環境とともに、職員休憩室の感染対策も強化した。
6	医療的ケアへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師・介護職間で情報共有し、安全な医療的ケアが提供できる体制や環境づくりに努めた。 ○安全委員会を年5回開催した。 ○職員3名が喀痰吸引研修を受講し、利用者1名・延べ2行為の医療的ケアを計10名の職員が実施できるようになった。（喀痰吸引等が実施できる生活支援員は計12名）
7	利用率向上・収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○移行による途中退所者が1名あった。 ○コロナ禍で年間20日以上自主休所した利用者は2名（前年度7名）であった。 ○活動や生活場面の制限に伴う機能低下により体調を崩す利用者も見られたが、利用状況には改善が見られ、平均利用率は90.2%（前年度比+1.8ポイント）で微増となった。介護給付費収入は1億8,737万円（前年度比+31万円）、収支差額（就労支援事業を除く）は▲1,071万円（前年度比+372万円）と若干の改善を図ることができた。

(3) 今後について

- 現在の利用者状況、施設状況をふまえたチーム編成への見直しを行うなど、現況に合わせた支援のあり方を検討・実施していく。
- 引き続き感染症等の対策を講じながらも、コロナ禍後を見据えて各種活動等の再開を徐々に図っていく。
- 支援学校2年生からの実習受け入れを行うなど、新規利用者の確保に向けた対応を検討・実施していく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和3年度	令和4年度
箕面市指定ごみ袋の生産	1,440,000円	1,560,000円
農園芸	398,205円	313,403円
さをり製品の生産・販売	34,544円	46,345円
指編み製品の生産・販売	1,000円	14,900円
ペットボトル、アルミ缶リサイクル等	126,180円	113,775円
館内清掃	400,000円	400,000円
計	2,399,929円	2,448,423円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃

令和3年度	令和4年度	前年度比
1,367円	545円	39.8%

②その他の活動

- 健康活動（機能維持訓練、ダンス、ストレッチ、ウォーキング等）
- 日常生活・社会適応訓練（外出を伴うものは実施なし）
- 創作活動（書道、手芸、季節の壁面飾り等）
- 文化活動（音楽療法、音楽活動、音楽・DVD鑑賞、紙芝居等）
- 所外活動（万博記念公園、エキスポシティ、服部緑地、道の駅 フルーツフラワーパーク大沢、海遊館、伊丹空港、パカラッパ、安満遺跡公園、池田駅散策）

(5) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和4年度	63名	33.1歳	14.4年	90.2%	56.5名
令和3年度	65名	32.2歳	13.5年	88.3%	57.8名

令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	35名	20名	8名	0名	0名	0名

4. わんすてっぷ<生活介護事業>

(1) 概要

- 利用者の平均年齢が56.0歳と徐々に高齢化が進むに伴い、入院や家庭環境の変化が生じた場合において関係先と連携のうえ対応した。
- 週3日利用の利用者1名が、年度途中に利用日数を1日増やして週4日利用に切り替え対応した。
- コロナ禍や病気、私的理由等による欠席もあり、平均利用人数は9.3名（前年度比▲0.5名）、介護給付費収入は2,773万円（前年度比▲89万円）であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	コロナ禍後を見据えた支援の検討・見直し	○新型コロナウイルスの感染拡大状況も踏まえて、感染対策を行いながら外出活動、行事等を実施した。
2	第三者評価を参考にした対応	○令和3年度に作成した業務マニュアルをふまえた支援を行うとともに、適宜マニュアルの見直し・整備を行った。
3	利用者高齢化に伴う家族・関係機関との連携強化	○利用者や家族の高齢化に伴い、利用者の健康状態や家庭環境の変化等について、家族や関係事業者と情報共有・意見交換を行いながら支援にあたり対応した。
4	利用者状況・家庭環境変化の的確な把握	○利用者の身体状況や家庭環境の変化をふまえ、正しい利用者基礎情報を把握するよう努め対応した。
5	虐待防止・サービス向上の取り組み	○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、eラーニング動画を視聴しての研修、グループワークによる事例検討の実施などにより、次回結果の改善につなげた。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に4名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援について考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。 ○医療機関と連携し、前年度に引き続き所内での歯科検診を実施するとともに、新たに所内でのインフルエンザワクチン接種を11月に実施した。
6	感染症対応の継続	○8月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○利用者・職員の感染防止を図るため、施設内消毒、アクリル板設置、施設換気等に加え、支援時の不織布マスク、フェイスシールド着用などの対応を行った。
7	利用率向上・収入増に向けた取り組み	○利用希望者1名の施設見学等の対応を行ったが、利用契約までには至らなかった。 ○週3日利用の利用者1名を年度途中に週4日利用に切り替え対応した。 ○新型コロナウイルスや私的理由等による欠席により、平均利用人数は9.3名（前年度比▲0.5名）となった。 ○これらの結果、介護給付費収入は2,773万円（前年度比▲89万円）となった。
8	再編・再整備計画の立案	○自主事業割合の拡大に向けた検討を進め、不動産会社や関係機関から物件情報の収集等を行ったが、物件の確保までには至らなかった。

(3) 今後について

- 利用者の高齢化が進むなかで、引き続き家族・関係機関との情報共有・連携強化に取り組んでいく。
- 利用者の健康維持に向けたサービス提供を進めていく。
- 自主事業として利用者・利用率の拡大を図るとともに、今後の事業のあり方を検討していく。

(4) 主な活動内容

- ①創作活動（手芸、折り紙、塗り絵、絵画等）
- ②文化活動（音楽鑑賞、ビデオ鑑賞、カラオケ、Wii、読書等）
- ③健康活動（健康診断、体重測定、ストレッチ、ウォーキング、筋力トレーニング、健康観察、血圧・脈拍測定、歯科検診、インフルエンザワクチン接種、保湿剤塗布等）
- ④心身を整えるための活動（足浴、リラックス等）
- ⑤専門職による相談・指導
（作業療法士・嘱託医への相談、看護師による手足爪切り、ダンス指導等）
- ⑥イベント（所外活動、ハロウィン体験、豆まき）

(5) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和4年度	12名	56.0歳	15.9年	83.8%	9.3名	
令和3年度	12名	55.1歳	14.9年	87.8%	9.8名	
令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	3名	4名	4名	1名	0名	0名

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<園管理運営事業>

(1) 概要

- 駐車場の安全確保のため、出入口への大型ミラーの設置、白線の引き直し、車止めの設置を行った。また、駐車場内の空きスペースに白線を引いて、新たに2台分の駐車区画を設けた。
- 各種講習会（要約筆記<全3回>、初級音訳<全11回>、初級手話<全35回>）を開催した。
- 3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。近隣地域の2事業所より4名の福祉専門職を招いて「福祉と医療、そして地域との連携」をテーマに講演会を行い、36名が参加した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	各種講習会（要約筆記・音訳・手話）の実施	○要約筆記講習会を全3回実施し、参加者は20名であった。 ○初級音訳講習会を全11回実施し、参加者は5名であった。 ○初級手話講習会を全35回実施し、参加者は15名であった。
2	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	○3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。近隣地域の2事業所より4名の福祉専門職を招いて「福祉と医療、そして地域との連携」をテーマに講演会を行い、36名が参加した。 ○例年12月に実施する箕面保育園との交流はコロナ感染流行により中止となったが、クリスマスプレゼントの交換を行った。
3	新規受講者の開拓	○茶道教室（受講者7名）、華道教室（受講者7名）は毎年受講者が固定されている状況であったが、新規利用者の開拓に取り組み、茶道教室は3月に新たな受講者を1名迎えることができた。
4	館内の環境整備	○前年度末に会議室のテーブル・パイプ椅子の買い替え、ホワイトボードの更新を行ったが、引き続き館内の設備・物品の状態確認、不要物品の整理を半年毎に実施した。
5	駐車場の改善の検討・協議	○駐車場の安全確保のため、出入口への大型ミラーの設置、白線の引き直し、車止めの設置を行った。また、駐車場内の空きスペースに白線を引いて、新たに2台分の駐車区画を設けた。
6	園庭の有効活用方法の検討・協議	○箕面市との協議は継続したが、具体的な運用の実施には至らなかった。

(3) 今後について

- 各種講習会、地域交流、障害者に関する啓発事業等を継続的に実施していく。
- 館内の環境整備や駐車場の整備や満車時の対応、園庭のあり方などについて、箕面市との協議を継続的に行っていく。

(4) ささゆり園利用状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
開館日数	320日	321日	100.3%
利用件数	1,164件	1,530件	131.4%
利用件数／日	3.6件	4.8件	133.3%
利用者数	12,074名	17,136名	141.9%
利用者数／件	10.4名	11.2名	107.7%
利用者数／日	37.7名	53.4名	141.6%

事業名	令和3年度		令和4年度		前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	36	266	42	297	111.7%	
[内訳]	①茶道教室	18	115	21	138	120.0%
	②華道教室	18	151	21	159	105.3%
ボランティア育成事業	48	672	49	515	76.6%	
[内訳]	①手話講習会「入門・基礎課程」	35	530	35	389	73.4%
	②音訳講習会<令和4年度：初級>	10	72	11	80	111.1%
	③要約筆記講習会	3	70	3	46	65.7%
啓発事業（障害者問題市民講座）	1	43	1	36	83.7%	
貸館事業	1,079	11,093	1,438	16,288	146.8%	
[内訳]	①障害者団体	472	5,891	704	9,570	162.5%
	②ボランティアサークル	286	2,737	436	4,196	153.3%
	③外郭・行政関係	133	1,540	137	1,581	102.7%
	④その他	153	887	144	924	104.2%
	⑤IT室	35	38	17	17	44.7%
合計	1,164	12,074	1,530	17,136	141.9%	

※会議室等使用団体数(令和5年3月31日現在)

- ・ 定期利用団体：44団体（前年度比 ±0団体）
- ・ 随時利用団体：7団体（前年度比 ±0団体）
- 【合計】 51団体（前年度比 ±0団体）

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<生活介護事業>

(1) 概要

- コロナ禍ではあったが、10月に利用者を8グループに分けてニフレルや神戸アトア、乗馬、キリンビール工場などへの園外活動を実施した。
- 医療的ケアが必要な利用者対応として、令和3年度より引き続き看護師の常時3名体制を維持した。さらに介護職がより多くの利用者に医療的ケアが実施できるよう喀痰吸引研修（実地研修）を実施して新規採用の職員2名が受講し、利用者10名に対して4行為の医療的ケアが新たに実施できるようになった。
- 利用者1名が逝去され、年度末の利用契約者は23名（前年度比▲1名）となった。また、新型コロナウイルスの流行時期に複数利用者が感染した影響等もあり、平均利用人数は16.4名（前年度比▲1.1名）であった

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	多様な活動による支援の実施	○コロナ禍ではあったが、利用者を8グループに分けて感染対策を行いながら、10月にニフレル、神戸アトア、乗馬、キリンビール工場、神戸ウミエモザイクでの園外活動を実施した。
2	延長支援の実施	○引き続き、個別支援計画に基づき生活介護の延長支援を男性3名、女性1名について実施した。また、延長支援の時間を活用し、嚥下機能トレーニング等も実施した。
3	入浴支援体制の見直し	○日中活動に重点を置き入浴サービス日や開始時間等を随時調整した。 ○入浴希望者に対して、他の社会資源（ホームヘルパー、訪問入浴）の情報提供を行った。
4	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	○利用者家族との交流会を年3回計画し（内1回はコロナ流行により中止）、前年度の実績報告ほか利用者や施設での取り組みなどに関する報告を行った。 ○障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上のため、専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、嘱託医1回/月）を受けた。
5	介護職員による喀痰吸引等の実施	○より多くの利用者に医療的ケアを実施するため、喀痰吸引研修（実地研修）を1月に実施した。新規採用の職員2名が受講し、利用者10名に対して4行為の医療的ケアが新たに実施できるようになった。 ○上記研修実施により、生活支援員等の職員16名全員が喀痰吸引等を実施できる体制となった。
6	虐待防止・サービス向上の取り組み	○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより、次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月に法人全体で開催した人権研修に21名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハットの内容を分析し、その対応について9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに、施設内で共有した。 ○市内の医療機関と連携し、園内での健康診断、歯科検診に加え、新たにインフルエンザ予防接種を11月に実施した。 ○医療的ケアが必要な利用者対応として、看護師の常時3名体制を維持した。
7	感染症対応の徹底と維持	○7月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。N95マスクの推奨や消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○職員、利用者ともに感染者は出たが、施設休所をすることなく、年間を通して営業を継続することができた。
8	医療的ケアのある利用者の地域生活支援の検討	○利用者を通して新たに2件の医療機関等とのつながりを持ち、家族交流会や市民講座にて短期入所や訪問看護についての情報を提供した。
9	利用率向上・収入増に向けた取り組み	○利用者1名が逝去され、年度末の利用契約者数は23名（前年度比▲1名）となった。 ○コロナの流行時期に複数の利用者から感染者が出るなどの影響があり、平均利用人数は16.4名（前年度比▲1.1名）であった。 ○介護給付費収入は7,994万円（前年度比▲233万円）となり、経常増減差額は918万円（前年度比▲76万円）であった。
10	支援学校新卒者の新規利用者確保	○支援学校高等部3年生1名の体験実習の受け入れを行うとともに、学校教諭やご家族と次年度の利用に向けての調整を進めていたが、在学中に逝去されたため新規利用には至らなかった。

(3) 今後について

- コロナ禍後を見据えた活動や支援のあり方を検討・実施していく。
- 高まる医療的ケアニーズに対応できるよう、引き続き看護師の常時3名体制を維持していくとともに、利用者の健康管理等を細めに行い、90%前後の平均利用率に近づけていく。

(4) 主な活動内容

- ① 行事等（プール、園外活動、忘年会、クリスマス会、年度末イベント等）
- ② 健康活動（エクササイズ、足浴、エアマット、ハンモック、スノーズレン、健康診断等）
- ③ 創作活動（さをり織り、組み紐、季節毎の展示物作成等）
- ④ 文化活動（楽器演奏、カラオケ、コンサート、ボウリング、ボッチャ、園芸活動等）
- ⑤ 屋外活動（個別外出、散歩、清掃活動等）
- ⑥ 作業活動（空き缶つぶし等）
- ⑦ 専門職による相談・指導（作業療法士・嘱託医への相談、音楽療法等）

(5) 医療的ケアの実施状況（令和4年度 利用対象者 16名）

内 容		人数	内 容		人数
たんの吸引	口腔内	12名	酸素投与（緊急時含む）		3名
	鼻腔内	7名	人工呼吸器管理		2名
	気管カニューレ内部	6名	カフアシスト		2名
経管栄養	胃ろう	7名	ブジー		1名
	腸ろう	2名	浣腸（摘便）		1名
	経鼻胃管	2名	留置カテーテル		1名
経管による与薬	胃ろう	2名	導尿		1名
	腸ろう	1名			
	経鼻胃管	1名			
吸入		1名	合 計（延べ人数）		52名

(6) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和4年度	23名	39.4歳	11.0年	86.7%	16.4名	
令和3年度	24名	40.0歳	10.1年	87.7%	17.5名	
令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	23名	0名	0名	0名	0名	0名

(1) 概要

- 利用契約者数は9名（前年度比±0名）で平均利用者数も2.1名（前年度比±0名）、給付費収入は200万円（前年度比▲3万円）と令和3年度とほぼ同様の利用状況であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	サービスの質的向上	○入浴ヘルパー1名を採用し、新任研修及び介護技術指導を4回実施したうえで入浴業務に従事させた。
2	入浴設備更新の検討	○普通浴槽など入浴設備の老朽化が進んでいることから、設備の更新について箕面市と協議を行った。
3	入浴支援体制の見直し	○利用者が固定化・長期化するなか、新規利用者の受け入れが困難な状況がある。必要に応じて他の社会資源の情報提供や調整を行うが移行する利用者はいなかった。また、新規利用希望者もなかった。
4	入浴ヘルパーの確保	○近隣の大学等へスタッフ募集をするなど、継続的に募集の取り組みを行い、入浴ヘルパーを1名採用した。これにより、入浴ヘルパーは男性1名、女性2名体制となった。 ○入浴ヘルパーだけで対応できない時は、生活介護事業の職員で対応した。
5	利用者増に向けた取り組み	○利用者の増減はなく利用契約者数は9名（前年度比±0名）であった。給付費収入は200万円（前年度比▲3万円）であった。

(3) 今後について

- 入浴設備の点検を行うとともに、箕面市と協議しながら必要に応じて設備の更新を行っていく。
- 入浴利用者に対して、ニーズを把握するとともに、必要に応じて他の社会資源の情報提供や調整を行い、居宅介護、訪問入浴サービス等への移行促進も行っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実施日数	242日	243日	100.4%
利用者数	510名	502名	98.4%
利用者数/日	2.1名	2.1名	100.0%

(1) 概要

- 大阪府登録喀痰吸引等研修機関として、実地研修及び修了申請事務を実施した。
- 令和4年度の修了者数は、延べ12名（全員が当福社会職員）であった。

6. 地域生活総合支援センター

＜共同生活援助事業・日中サービス支援型共同生活援助事業・短期入所事業＞

(1) 概要

- 令和4年度、7カ所のグループホームにおいて新型コロナ陽性者が入居者延べ21名・職員延べ14名発生し、陽性者支援を行った。
- 入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図るため、グループホームで新たに訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問看護を4名・延べ8件導入した。これにより累計で13名が延べ28件の訪問系医療を利用することとなった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	入居者の高齢化・重度化への対応	○入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図るため、グループホームに新規で訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問看護を4名・延べ8件導入した。これにより累計で13名が延べ28件の訪問系医療を利用することとなった。
2	余暇支援の充実	○余暇活動計画や個別支援計画に基づき、グループホーム利用者に対する移動支援を年間で306件、1,429時間（前年度比▲9件、+301時間）実施した。前年度同様コロナ禍ではあったが、感染者数が落ち着いていた時期には行動範囲を広げ、以前のように季節のイベント参加や県外への外出も実施したため、派遣時間の増加につながった。
3	世話人との連携強化	○前年度に引き続き、サービス管理責任者の月1回以上のグループホーム訪問や電話・メールでの連絡を継続的に実施した。 ○世話人会議をほぼ毎月オンラインで開催し、情報共有や研修を行った。
4	虐待防止・サービスの質の向上に向けた取り組み	○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月～3月に法人全体で開催した虐待防止研修に17名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。
5	支援者の確保	○登録ヘルパー3名、派遣職員14名を新たに確保した。
6	利用率向上・収入増に向けた取り組み	○365日運営を行っていない3つのグループホームにおいて祝前日運営を計8日間行い、延べ74名が利用した。（前年度6日、延べ55名利用） ○5月の連休時や年末年始における1日あたりの平均利用者数は12.2名（前年度比+0.4名）となった。 ○7カ所のグループホームにおいて、新型コロナ陽性者が入居者延べ21名・延べ職員14名発生し、陽性者支援を行った。 ○新型コロナウイルス感染等による入居者の入院や一部ホームの休所（10日間）もあったが、年度を通して定員が充足した状態を維持できたこともあり、訓練等給付費収入は10,289万円（前年度比+349万円）であった。
7	再編・再整備計画の立案	○各ホームの集約化等について検討・物件探しを行ったが、適当な物件の確保には至らなかった。

(3) 今後について

- 入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図っていくため、訪問系サービスや医療系サービスとの連携・活用をさらに進めていく。
- コロナ禍後を見据えた余暇支援のあり方を検討・実施していく。
- グループホームの集約や再整備について引き続き検討・実施していく。

(4) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

①第2つながりの家

	在籍者数	平均年齢	平均利用率	平均利用人数
令和4年度	28名	48.8歳	85.7%	22.4人
令和3年度	28名	47.8歳	81.4%	21.9人

令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	5名	7名	7名	7名	2名	0名

②第11つながりの家

	在籍者数	平均年齢	平均利用率	平均利用人数
令和4年度	8名	51.5歳	91.6%	7.3人
令和3年度	8名	50.5歳	97.0%	7.2人

令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	7名	1名	0名	0名	0名

短期入所利用状況	年間延べ利用者数
	0名

6. 地域生活総合支援センター

＜居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業＞

(1) 概要

- 居宅介護においては、グループホーム利用者の利用日が増加したこと、有資格者が確保できたことで、年間の提供時間は3,531.5時間（前年度比+44時間）となった。
- 移動支援においては、新型コロナによる制限が緩和傾向にあったことで長時間の外出が増えたことから、提供回数370回、提供時間1,858時間（前年度比▲16回、+479時間）となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	GHにおける居宅介護サービスの充実	○グループホーム利用者の利用日が増加したこと、有資格者が確保できたことで、年間の提供時間は3,531.5時間（前年度比+44時間）となった。 ○通院等介助の契約者は20名で、グループホーム利用者への訪問医療、訪問介護の導入が増加したことで通院機会は減少したため、年間の提供時間は345.5時間（前年度比▲72時間）となった。
2	GHにおける余暇支援の充実	○新型コロナによる制限が緩和傾向にあったことで長時間の外出が増えたことから、移動支援は提供回数370回、提供時間1,858時間（前年度比▲16回、+479時間）となった。 ○グループホーム利用者に対する移動支援の提供時間は、余暇活動計画や個別支援計画に基づき、提供回数306回、提供時間1,429時間（前年度比▲9回、+301時間）であった。
3	登録ヘルパー等の確保・育成	○女性1名の登録ヘルパーを確保した。 ○男性2名、女性1名の有資格ヘルパーを確保した。
4	有資格従事者の確保・育成	○男性職員1名が同行援護（基礎）資格を取得した。 ○男性職員1名が初任者研修を修了した。
5	収入増に向けた取り組み	○居宅介護の介護給付費収入は2,664万円（前年度比+48万円）であった。 ○移動支援の介護給付費収入は459万円（前年度比+88万円）であった。

(3) 今後について

- コロナ禍後を見据えた余暇支援（移動支援）のあり方を検討・実施していく。
- グループホーム入居者のニーズの把握に努め、居宅介護や移動支援の提供時間の増加につなげていく。

(4) ヘルパー派遣状況（令和5年3月31日現在）

単位：時間

	居宅介護				同行援護
	通院等介助			身体介護	
	(身体介護なし)	(身体介護あり)	合計		
令和4年度	73.0	272.5	345.5	3,531.5	170.0
令和3年度	15.0	422.0	437.0	3,487.5	129.0

	移動支援		
	I類	II類	合計
	(身体介護なし)	(身体介護あり)	
令和4年度	1,708.5	149.5	1,858.0
令和3年度	1,286.5	92.5	1,379.0

6. 地域生活総合支援センター<相談支援事業>

(1) 概要

- 福祉サービスの利用、健康・医療、家族関係・人間関係に関する相談を含め、1,402件（前年度比▲103件）の相談に対応した。
- 市内相談支援事業所の年度末での閉所に伴う利用契約者の引き継ぎで、新たに7名と利用契約を行った。また、一般相談から計画相談への移行、本人・家族希望による他事業所からの引き継ぎなどにより、年度末時点での利用契約者数は113名（前年度比+10名）となった。
- 就職希望の利用者3名に対して、就労移行支援及び就労継続支援A型の利用を通じた取り組みを実施して、一般就労へとつなぐことができた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	支援内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○本人・家族の生活状況等を踏まえて、モニタリング期間（間隔）の変更を13名に対して行った。（短縮したケース：9名、延長したケース：4名） ○就職希望の利用者3名に対して、就労移行支援及び就労継続支援A型の利用を通じた取り組みを実施して、一般就労へとつなぐことができた。
2	困難事例への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○就労を中心としていた利用者1名について、本人の心身の状況を踏まえて福祉サービスの利用（日中活動先として生活介護）へとつなげた。 ○虐待事例（疑いも含む）2名のうち、1名は引き続き家族間の様子の確認や日中活動先との情報共有のもと、適度な距離感を持てるようにサービス等の調整を行った。もう1名は物理的に距離感を保てるように共同生活援助（グループホーム）の利用・入居へとつなげた。 ○家族の高齢化・入院等に伴い、家族に代わって関係機関と調整を図るケースは増加傾向にあり、引き続きその対応を行った。（継続的には3名）
3	支援の質的向上	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種連携を必要とするケースへの実践を通じて知識・経験を蓄積し、今後の事例に活かせるように努めた。 ○強度行動障害の利用者に対し、適切な評価をしてサービス等の計画を作成するため、相談支援専門員1名が「強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）」を修了した。
4	相談支援専門員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援専門員資格に係る「初任者研修」を1名受講し、今後の異動等に備えるようにした。
5	業務体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度に引き続き、2名体制で相談支援業務を行った。
6	収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉サービスの利用、健康・医療、家族関係・人間関係に関する相談を含め、1,402件（前年度比▲103件）の相談に対応した。 ○市内相談支援事業所の年度末での閉所に伴う利用契約者の引き継ぎで、新たに7名と利用契約を行った。また、一般相談から計画相談への移行、本人・家族希望による他の事業所からの引き継ぎなどにより、年度末時点での利用契約者数は113名（前年度比+10名）となった。 ○利用者本人の状況やサービス等利用時の状況を直接確認するため、個々人の状況に応じて訪問を行った。これによりモニタリング303件のうち34件においてモニタリング加算を算定した。また、ケースに応じて担当者会議を15件開催して担当者会議加算を算定した。 ○計画相談支援給付費収入は618万円（前年度比▲1万円）であった。

(3) 今後について

- モニタリングの頻度や担当者会議の開催頻度について個々のケースに応じた時期に実施出来るよう調整を図るとともに、業務の効率化を引き続き検討・実施していく。
- 困難事例への対応については、関係機関と連携し多様な観点からの支援策を検討していく。
- 強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）を修了した職員を相談支援専門員として配置し、適切な評価、計画の作成ができるよう取り組んでいく。
- 相談支援の利用契約者のモニタリングに関して、計画通りに実施できるよう進捗管理を行っていく。

(4) 相談状況（令和5年3月31日現在）

①相談経路別

単位：件

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
訪問	38 (0)	158 (0)	151 (0)	20 (0)	367 (0)
来所	2 (0)	76 (0)	76 (1)	4 (0)	158 (1)
同行	1 (0)	26 (0)	20 (0)	2 (0)	49 (0)
電話	23 (0)	399 (0)	320 (1)	24 (0)	766 (1)
電子メール	1 (0)	7 (0)	5 (0)	0 (0)	13 (0)
個別支援会議	0 (0)	11 (0)	9 (0)	0 (0)	20 (0)
関係機関	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)
その他	1 (0)	15 (0)	9 (0)	2 (0)	27 (0)
合計	66 (0)	692 (0)	592 (2)	52 (0)	1,402 (2)

※（ ）内は児童の相談件数

②相談内容別

単位：件

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
福祉サービスの利用	22 (0)	407 (0)	397 (2)	34 (0)	860 (2)
障害・病状の理解	2 (0)	39 (0)	22 (0)	3 (0)	66 (0)
健康・医療	8 (0)	104 (0)	63 (0)	0 (0)	175 (0)
不安解消・情緒安定	3 (0)	71 (0)	40 (0)	2 (0)	116 (0)
家族関係・人間関係	16 (0)	30 (0)	32 (0)	5 (0)	83 (0)
家計・経済	12 (0)	10 (0)	8 (0)	3 (0)	33 (0)
生活技術	0 (0)	7 (0)	7 (0)	0 (0)	14 (0)
就労	0 (0)	8 (0)	10 (0)	1 (0)	19 (0)
社会参加・余暇活動	3 (0)	6 (0)	5 (0)	2 (0)	16 (0)
権利擁護	0 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	12 (0)
その他	0 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	8 (0)
合計	66 (0)	692 (0)	592 (2)	52 (0)	1,402 (2)

※（ ）内は児童の相談件数

7. 事故・苦情・ヒヤリハット等の状況

(1) 苦情解決システムに基づく対応

施設	苦情内容 (苦情受付経路)	対応結果
あかつき園・ワークセンターささゆり	利用者が新型コロナウイルスの濃厚接触者になった経過について、事実と異なる情報が伝えられた。 (苦情受付担当者)	必要かつ正確な事実だけを職員へ周知して、誤った情報が発信されないようにしていくことを、施設管理者から苦情申出者に説明し、了承を得た。

(2) 事故・苦情・ヒヤリハットの取りまとめ状況

①事故

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
誤薬・誤飲	あかつき園・ワークセンターささゆり	1件	内容 誤薬 原因 確認不足	与薬確認の徹底
	ささゆり園	2件	内容 与薬忘れ、誤薬 原因 確認不足	予薬確認の徹底
	地域生活総合支援センター	3件	内容 与薬忘れ、誤薬 原因 確認不足	与薬確認の徹底
合計		6件		

怪我	あかつき園・ワークセンターささゆり	7件	内容 打撲・擦過傷・出血 原因 職員の不注意、利用者の状況把握不足、環境不備	安全配慮の徹底 環境整備
合計		7件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
他傷行為による怪我	あかつき園・ワークセンターささゆり	7件 (うち対職員3件)	内容 蹴る、噛む、引き倒す、砂をかける 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 障害特性	利用者の心的状態の適切な把握 安全配慮の徹底 環境整備 障害特性に関する支援スキルの向上
合計		7件		

自傷行為による怪我		0件		
合計		0件		

器物損壊	あかつき園・ワークセンターささゆり	4件	内容 車両ガラス破損、車いすスリッパ破損、加湿器破損、パルスオキシメーター破損 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 障害特性	利用者の心的状態の適切な把握 安全配慮の徹底 環境整備 障害特性に関する支援スキルの向上
合計		4件		

無断外出	地域生活総合支援センター	1件	内容 入居者の無断外出 原因 入居者の状態把握不足	入居者の心的状態の適切な把握 環境整備 障害特性に関する支援スキルの向上
合計件数		1件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
車両事故	あかつき園・ワークセンターささゆり	10件	内容 対物接触 原因 確認不足	安全運転の徹底
	ささゆり園	3件	内容 対物接触 原因 確認不足	安全運転の徹底
合計件数		13件		

その他	(あかつき園・ワークセンターささゆり)			
	・ 注入時間の間隔忘れ			1件
	・ 添乗職員未乗車での送迎車発車			1件
	(わんすてっぷ)			
	・ 転倒			2件
(ささゆり園)	・ 注入チューブ装着誤り			2件
	・ 利用者の持ち物(クッション)破損			1件
	(地域生活総合支援センター)			
・ 帰宅時の職員不在			3件	
・ 入居者の私物紛失			1件	

②苦情

部署	件数	内容	原因	解決状況
地域生活総合支援センター	1件	入居者の備品管理に関するもの	職員の情報共有不足	情報共有の徹底
合計件数	1件			

③ヒヤリハット

部署	件数	内容	
あかつき園・ワークセンター ささゆり	141件	<ul style="list-style-type: none"> * 自傷行為・他傷行為に至る恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 器物破損の恐れがあった事案 * 利用者の持ち物を紛失する恐れがあった事案 * 所在不明に繋がる恐れがあった事案 * 転倒・転落の恐れがあった事案 * 異食に繋がる恐れがあった事案 	70件 27件 21件 10件 6件 5件 2件
わんすてっぷ	6件	<ul style="list-style-type: none"> * 怪我する恐れがあった事案 	6件
ささゆり園	27件	<ul style="list-style-type: none"> * 確認不足により事故等に繋がる恐れがあった事案 * 身体症状に影響する恐れがあった事案 * 転倒の恐れがあった事案 * 物品忘れ・紛失に繋がる恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 利用者の持ち物を破損する恐れがあった事案 	10件 5件 4件 4件 3件 1件
地域生活総合支援センター	45件	<ul style="list-style-type: none"> * 利用者に不利益が生じる恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 誤薬・服薬忘れに繋がる恐れがあった事案 * 転倒・転落の恐れがあった事案 * 身体症状に影響する恐れがあった事案 * 所在不明に繋がる恐れがあった事案 * 器物損壊に繋がる恐れがあった事案 * 誤嚥に繋がる恐れがあった事案 * 現金帳の金額に誤差が生じる恐れがあった事案 	22件 7件 5件 3件 2件 2件 2件 1件 1件
合計件数	219件		

8. 地域参加・交流状況

(1) クリーン・みのお作戦 (主催：箕面市)

開催日	6月12日 (日)
参加場所	西南小学校周辺、芦原公園、西小学校周辺
参加利用者	11名
職員従事者	7名
内 容	公園・道路などの清掃

(2) あかつきまつり (主催：あかつき福祉会)

開催日	10月29日 (土)
実施場所	瀬川地区敷地内
来場者	471名 (うち利用者44名)
協力団体	3団体
職員従事者	50名
内 容	マジックショー、抽選会、ゲームコーナー、授産製品販売など

(3) みんなおいでよ交流会

(主催：西南ジャンボリー実行委員会、西南小校区青少年を守る会)

開催日	11月19日 (土)
参加場所	西南小学校
職員従事者	9名
内 容	走り方教室の記録係

(4) いきいきふれあい広場 (主催：西南小地区福祉会)

コロナ禍のため中止

9. 職員研修実施状況

(1) 法人全体研修

実施日	研修内容	参加者	講師
7月21日、 2月1日・2日・7日（計4回）	普通救命講習	15名	箕面市消防署 当福社会職員
令和4年9月3日、 令和5年3月4日（計2回）	正規職員研修	34名	京都光華女子短大 森際教授
令和4年10月6日	摂食嚥下研修	20名	寺嶋歯科医院
令和4年12月7日～22日 （計8回）	虐待防止研修	95名	当福社会職員
	合計	164名	

(2) 事業・施設別外部研修参加状況

※人数は延べ人数

部署	令和3年度	令和4年度
法人本部	9名（8件）	8名（5件）
あかつき園・ワークセンターささゆり	36名（14件）	22名（6件）
わんすてっぷ	1名（1件）	0名（0件）
ささゆり園	21名（9件）	13名（5件）
地域生活総合支援センター	43名（24件）	19名（14件）
合計	110名（56件）	62名（30件）

	研修内容
法人本部	事業継続計画（BCP）、人権啓発学習会、応急手当普及員講習、外国人労働者の活用、箕面市人権セミナー
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	重心者に対する呼吸ケア、サービスマナーセミナー（初級クラス）、安全運転管理者講習、相談支援従事者現任研修、相談支援従事者初任者研修、箕面市人権セミナー
ささゆり園	安全運転管理者講習、人権啓発学習会、労働セミナー、父母の会防災研修会、箕面市人権セミナー
地域生活総合支援 センター	障がいのある方の地域生活を応援するためのシンポジウム、箕面市生活困窮者自立支援推進協議会、てんかん基礎講座、障がい者在宅就労支援セミナー、大阪府強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）、知ってほしい障害者の生活～なぜ、グループホームや福祉施設は地域で摩擦が起きるのか～、発達障がいを受容ですませないために～発達障がいの基礎を知る～、障がい児者・救護施設課程（応用コース）、強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）、福祉職員研修（チームリーダー）、障がい者虐待防止・権利擁護研修（障がい福祉サービス事業所等コース）、介護職員必見！現場で必要な接遇マナー講座、箕面市人権セミナー、暮らしと財産を守る成年後見制度

※部門内研修は別途実施

10. 実習生受入状況

(1) 進路支援に係る実習

施設・事業	実習元	実人数	延べ日数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	2名	3日	卒業後の進路先の検討
	相談支援事業所	1名	3日	通所に向けた体験利用
ささゆり園	箕面支援学校	1名	1日	卒業後の進路先の検討
	合計	4名	7日	

(2) その他

施設・事業	実習元	実人数	延べ日数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	関西学院大学	12名	12日	介護実習
	箕面学園福祉保育 専門学校	2名	2日	介護実習
	箕面市職員	8名	8日	福祉体験研修
	プレースメント株 式会社	4名	4日	介護実習
	大阪福祉人材支援 センター	1名	1日	インターンシップ
	京都芸術大学	5名	5日	介護等体験
ささゆり園	箕面市職員	5名	5日	福祉体験研修
	合計	37名	37日	

11. ボランティア受入状況

施設・事業	受入内容	受入回数	延べ受入者数
あかつき園・ ワークセンターささゆり	音楽コンサート	1回	1名
	さをり織り	2回	4名
	合 計	3回	5名

12. 視察・見学状況

(1) 受入状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	箕面市議会議員	5名	施設見学
	小野原地区民生委員	14名	施設見学
	箕面市社会福祉協議会	2名	施設見学
	箕面市職員	4名	施設見学
	ブラウンハウス	3名	施設見学
	入職希望者	1名	施設見学
	ボランティア希望者	1名	施設見学
	箕面支援学校	8名	施設見学
	箕面市内の中学校支援学級	8名	施設見学
	西南小学校	-	ZOOMによる施設見学
わんすてっぷ	相談支援事業者・利用希望者等	4名	施設見学
ささゆり園	箕面市議会議員	5名	施設見学
	箕面市社会福祉協議会	2名	施設見学
	箕面市職員	2名	施設見学
	医療福祉センターさくら	1名	施設見学
	s u nゆにてい	2名	施設見学
	入職希望者	10名	施設見学
合 計		72名	

(2) 視察・見学実施状況

施設・事業	視察・見学先	人数	目的
ささゆり園	医療福祉センターさくら	2名	施設見学
地域生活総合支援 センター	エール箕面 (GH)	2名	施設見学
	いち福 (GH)	2名	施設見学
合 計		6名	

13. 講師派遣状況

施設・事業	派遣先	件名	派遣講師
地域生活総合支援センター	一般社団法人共生福祉の会	計画相談支援事業について	葛西 則人
	箕面市肢体不自由児者父母の会	レクリエーションボランティア講習会	横山 広明

14. 役員名簿（令和5(2023)年3月31日現在）

(1) 理事

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	奥村 一朗	箕面ライオンズクラブ	会員	事業区域の福祉に通じる者
理事	石田 良美	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	社会福祉事業経営の識見を有する者
理事	太田 克己	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	事業区域の福祉に通じる者
理事	吉田 功	元 箕面市職員		事業区域の福祉に通じる者
理事	長谷川 千波	箕面市健康福祉部	担当副部長	事業区域の福祉に通じる者
理事	木村 勝也	社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団	事務局長	社会福祉事業経営の識見を有する者
理事	福田 寛久	社会福祉法人あかつき福祉会 わんすてっぷ	所長	施設管理者

(2) 監事

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
監事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社	監事	社会福祉事業の識見を有する者
監事	大倉 英樹	社会福祉法人慶徳会	事務局長	財務管理の識見を有する者
監事	星原 講史	箕面市会計室	会計管理者	財務管理の識見を有する者

(3) 評議員

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	島谷 都夫	西南小地区福祉会	事業部会長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	一般財団法人箕面市障害者事業団	副局長	地域の福祉関係者
評議員	榎本 浩之	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団 明光ワークス	所長	地域の福祉関係者
評議員	植田 恵美子	社会福祉法人息吹	理事長	社会福祉事業の経営者
評議員	亀谷 雅彦	元 社会福祉法人あかつき福祉会 職員		地域の福祉関係者
評議員	木村 知也	箕面ロータリークラブ	幹事	地域の福祉関係者
評議員	寛 加代	社会福祉法人あおば福祉会 瀬川保育園	園長	社会福祉事業の経営者
評議員	榎原 淳子	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	地域の福祉関係者

(4) 評議員選任・解任委員会委員

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員 選任・解任 委員会委員	寺内 勇	社会福祉法人翠明社	監事	監事
評議員 選任・解任 委員会委員	東 有希子	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立あかつき園・ワークセンターささ ゆり、地域生活総合支援センター	所長	事務局員
評議員 選任・解任 委員会委員	多田 育雄	元 NPO法人監事		外部委員

(5) 運営協議会委員

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
運営協議 会委員	名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	書記	理事長が適当と認める者
運営協議 会委員	羽藤 隆	箕面市身体障害者福祉会	会長	理事長が適当と認める者
運営協議 会委員	日根 真理	箕面市西南小校区青少年を守る会	幹事	地域の代表者
運営協議 会委員	平安 幸子	箕面市赤十字奉仕団	副委員長	地域の代表者

16. 令和4(2022)年度職員内訳

令和5年3月31日現在

部 署	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	2名	3名	1名	6名
あかつき園・ワークセンターささゆり	10名	17名	32名	59名
わんすてっぷ	2名	3名	1名	6名
障害者福祉センターささゆり園	2名	7名	15名	24名
地域生活総合支援センター	3名	14名	10名	27名
合 計	19名	44名	59名	122名

注) 臨時職員数には送迎車運転・添乗等の短時間勤務職員を含み、派遣職員は含まない。
その他、登録職員19名(実質稼働者数)